総合医学会報告

シンポジウム

医療系論文の書き方と注意点
－「医療」に投稿して世の中に発信しよう－

座長　大島久二[†]　川井　充[*]

第68回国立病院総合医学会
（平成26年11月14日　於横浜）

IRYO　Vol. 70　No. 4（181－182）2016

キーワード　論文，リサーチマインド，研究倫理，利益相反

はじめに

「医療」は，国立医療学会の機関誌である．本誌は，医師ならびに看護師や事務職を含めたすべての病院職員による投稿を受け付け，掲載している．日常診療の中では多くの職員が分析や工夫を行い，PDCA サイクル（Plan；計画→Do；実行→Check；評価→Act；改善）などを通して具体化している．一方，論文は，それまでの分析や工夫をまとめて的確に文字として表し，多くの人々に知ってもらう効果がある．それにより，読者は容易にこれらの情報を取り入れることができ，さらに次のステップに進むことができる．人類が，言葉による伝承から，文字による継承により飛躍的な文明の進歩を成し遂げたことに通じるものである．

本誌の編集委員会では投稿された論文の査読を行うとともに，いかにして普段論文を書き慣れていない職種あるいは職員に対して学術論文を執筆してもらうかを議論してきた．この議論の中で，具体的にどのようにすれば論文を執筆できるかを知ってもらうことが重要であろうということになった．この点を具体化すべく，編集委員会が提案し，第68回国立病院総合医学会において『医療系論文の書き方と注意点－「医療」に投稿して世の中に発信しよう－』と題したシンポジウムが行われた．本シンポジウムでは，研究としての発想とその具体化，知っておかなければならない研究倫理と利益相反，具体的な論文の書き方，メディカルスタッフによる執筆の実際を，編集委員会の各委員が発表した．本稿では，座長としてそれらの要約を記すこととした．

「研究の設計図」を作ろう

国立国際医療研究センター国府台病院の榎本哲郎氏は，いかにして日常行われている分析や工夫を，研究としての論点にまとめるかの具体的方法について発表した．実際の事例をもとにし，整理して議論することにより，論文となりうるまとめを設計図と

国立病院機構東京医療センター　膠原病内科　＊国立病院機構東埼玉病院　神経内科　†医師
著者連絡先：大島久二　国立病院機構東京医療センター　膠原病内科　〒152-8902　東京都目黒区東が丘２－５－１
e-mail : HOhshima@ntmc.hosp.go.jp
（平成27年10月20日受付，平成28年１月８日受理）
How to Write Medical Papers According to the Rules
Hisaji Oshima and Mitsuru Kawai*，NHO Tokyo Medical Center，＊NHO Higashisaitama National Hospital
（Received Oct. 20, 2015, Accepted Jan. 8 , 2016）
Key Words : paper，research mind，research ethics，conflict of interest

して示した．これは「リサーチマインド」（研究の指向性）と呼ばれる医療職としての考え方の原点であると思われる．

研究倫理と利益相反

国立成育医療研究センターの藤本純一郎氏により，一見聞き慣れない研究倫理と利益相反による解説がなされた．本シンポジウム開催以降，研究倫理指針が改訂されたが，基本的な方針は変わっていない．近年は，各病院で研究倫理に関する教育の機会が提供され，Web 上でも研修が受けられるようになってきている．一方，利益相反については，近年の社会情勢からもよく理解しておかなければならない事項であり，研究倫理の講習や研修において同時に習得することができるようになってきている．発表では，それらの概略が述べられたが，医療者としての日常の業務においても重要な事柄である．

決まりを知っていれば
論文作成はむずかしくない

国立病院機構東埼玉病院の川井充氏は，実際の論文の書き方について発表した．医療系論文には書き方にルールがあるが，それは手紙の書き方にルールがあることと同じともいえよう．投稿規定を確認することから，タイトル，所属，抄録，キーワード，論文の構成，時制，用語，統計に至るまで，これまでに投稿された論文の査読経験から，これらの主要な点について詳細に発表された．

メディカルスタッフからの投稿
看護の立場から

国立病院機構災害医療センターの長田恵子氏により，看護師としていかに論文を執筆する環境を整えているかが発表された．世界的にも最も医療職として人数の多い看護師が，いかにして医療の進歩を支えていくかに直結する課題であり，これらの方策が実際の論文投稿へと繋（つな）がっていくことが期待される．

終わりに

本シンポジウムでは，普段編集委員として投稿論文の査読を行っている経験から，とくに国立医療学会の会員用に，いかにすれば論文を執筆できるかを丁寧に解説したものとなった．国立医療学会会員がまず１つ論文を執筆すれば，単に膨大な論文数となるだけでなく，国立医療学会所属病院の医療の質が向上することに直結するものと考えられる．本シンポジウムの内容が，国立医療学会の発展ならびに所属病院で医療を受ける患者にとって有益となることを願っている．

〈本論文は第68回国立病院総合医学会シンポジウム「医療系論文の書き方と注意点 －「医療」に投稿して世の中に発信しよう－」として発表した内容を座長としてまとめたものである．

著者の利益相反：本論文発表内容に関連して申告なし．